

**お** かみさん(辰島澄枝さん)に誘っていただいて、キャンドルナイトの日に、行きつけの居酒屋「はうす2」をのぞきました。店内はろうそくのほのかな灯りで、いいムードだね。普段から雰囲気のできたタイプだから、その日はいつもより酔いましたよ。今はもう温暖化は「手遅れの一手手前」のような感じ。ガソリンとか物価とか、そういう話になると、どうしても暗くなるけど、とにかく前向きに、身近なことからやらないとしょうがないですね。会社(宝見物産)でもこれまでごあいさつにタオルをお配りしてましたが、今年からエコバックに変えました。これからは、キャンドルナイトのような、みんなが楽しめて、なおかつ環境にも優しい、温暖化対策を意識できるような取り組みが、もっと必要なのではないでしょうか。



村上さんが「100万人のキャンドルナイト」を企画編集した筑豊のタウン誌「チクスキ」



Murakami Natsumi

例題 EDITORIAL DESIGNER  
村上 奈都美さん

## 電気を消してスローな夜を

**以** 前から筑豊のイメージを変えたいと思っていました。筑豊が好きだから、私自身もそうだったのですが、筑豊ではあまり「エコ」って意識しないじゃないですか。環境のことを机上で考えても何も変わらない。楽しくないと継続できないし、継続できなければ意味がないって思ったんです。そこで、夏至と冬至に電気を消してスローな夜を過ごす「キャンドルナイト」に目を付けました。自分自身も変える意味で昨年からの取り組み、今では参加店舗も70を超えています。キャンドルナイトのCO2削減効果は薄いかもしれませんが、ただ、まず環境意識することが大切だと思うのです。このキャンドルナイトが一ひとりのアクションを起こすきっかけに、そしてバレンタインのような取り組みになればと思っています。

**コ** ンポストは以前から使っていましたが、7月に町の助成制度を申請して「自動生ゴミ処理機」を購入しました。姉の薦めで半信半疑でしたが、すごく画期的で、ゴミ袋のサイズも大から小に減りました。普段から特別、環境について何かしてるつもりはないんです。ただ、ソーラー発電やエコバックを利用したり、庭木の水やりにも雨水を使ったり、あと、リサイクルゴミをきちんと処理して出すことくらい。生活の中ではそれが当たり前になっています。ただ、年々異常気象を実感しますし「今の子どもたちに本当に未来はあるのかな」と不安になることがあります。そんな時、日ごろは意識しませんが、習慣の積み重ねの大切さを感じます。環境のことは目をそらすず考えなければ、いずれ自分たちに跳ね返ってくると思います。



商品の半額(限度額2万円)の助成制度がある自動生ゴミ処理機。町内の販売店で購入するなどの条件があり、コンポストの助成制度もありません。詳しくは、問住民課環境衛生係。22777661

## 習慣の積み重ねが大切



Ota Fumie

町助成を活用し自動ゴミ処理機を購入した  
太田 文江さん(上野)

## とにかく前向きに身近な事から



レゲエ音楽と和の空間、お食事とお酒が楽しめる「はうす2」(上金田・22-5006) 普段からシックな照明で落ち着いた雰囲気を出しています。



Oi Kazuhisa

「はうす2」でキャンドルナイトを体験した。  
大井 久一さん(金田)

**当** センターでは県内の地球温暖化防止活動を促進するため「ふくおか減CO2大作戦」や「環境マイスター派遣事業」を展開し、広報啓発や情報提供、支援活動などを行っています。この取り組みを進めていく中で、やはりまだまだ地球温暖化の現状や危機感がみなさんに伝わっていないことを実感します。地球温暖化の著しい被害を受ける恐れがあるのは、今の子や孫の世代です。ですから、この問題を身近にとらえ、行動を起こさなければ、一人ひとりが将来的に環境に対する加害者となってしまいます。CO2を出さない生活は、省エネ生活であり、お金がかからない上手なライフスタイルです。ぜひ、地球温暖化の現状、そして未来への影響を少しでも意識しながら生活してほしいと思います。

## 賢く経済的なエコライフ



県内の地球温暖化防止活動を積極的に支援している県地球温暖化防止活動推進センター



Kumamoto Masaaki

福岡県地球温暖化防止活動推進センター  
副センター長 隈本 正顕さん



環境マネジメントシステムの国際規格 ISO14001を取得している九州日立マクセル(伊方)



Chiya Jo Masanobu

九州日立マクセル(株) CSR推進室長  
知屋城 雅展さん

**国** 際規格のISO14001を2000年に取得した当社は、施設の蛍光灯、インバーター、エアコン、断熱、受電トランスなどを更新し、5年間で約1億円以上をかけてCO2排出量を削減しました。施設は1990年比で2倍近く拡張しましたが、CO2は微増にとどめています。また2003年から資材などの99%以上を再利用するゼロミッションを達成し、現在も継続しています。輸送エネルギーの削減、紙を使用しないデータ共有、昼休みは電灯とパソコンの電源を落とすというエコスタイルも社内で浸透しました。社内で環境適合商品を開発し、生産していくなかで、職員間でもエコドライブやエコ商品への買い換えが進んでいます。2007年度から日立マクセルグループ統一のEMS構築も進み「恵み豊かな地球を次世代へ」をスローガンに、これからも取り組みを進めています。

## 恵み豊かな地球を次世代へ



「どこか遠い事のように…」きつとだれかが解決してくれる…」地球温暖化ってスケールが大きすぎて、つい、そう考えてしまいがちです。ですが、将来の生活や地球の未来という課題を人任せにしないのでしょか。環境を身近に考えているみなさんに、日頃からの取り組みや思いを伺いました。



Tachino Sadao

九州日立マクセル(株) 環境推進グループ長  
立野 貞夫さん

# 私達にはできる事があります。